

[参考事項]

新技術名：秋田県南部のリンゴ園における土着カブリダニの発生状況（平成15年）

研究機関名 果樹試験場 環境部 虫害担当
担 当 者 本郷公子・舟山 健

[要約] 秋田県南部のリンゴ園に生息する土着カブリダニの主要種は、フツウカブリダニとケナガカブリダニの2種である。リンゴハダニが多くナミハダニが少ない園地ではフツウカブリダニが多く、ナミハダニが目立つ園地ではケナガカブリダニが多い傾向がある。

[ねらい]

リンゴのハダニ類の防除では、ハダニ類の殺ダニ剤に対する抵抗性発達の問題や環境に配慮した減農薬防除を行うために、殺ダニ剤に依存しない防除法が求められている。そこで、ハダニの天敵であるカブリダニ利用による防除法を確立するために、現地リンゴ園におけるカブリダニ類の発生種と発生状況を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

- 1．殺虫剤無散布の場内圃場と現地慣行防除園3か所において、5月から11月までの間、約10日間隔でリンゴ葉を採集し、ハダニとカブリダニの発生種を調査した。
- 2．殺虫剤無散布圃場では、フツウカブリダニ、ケナガカブリダニ及びニセラーゴカブリダニの3種が確認されるが、ニセラーゴカブリダニの発生数は少い（図1）。
- 3．現地慣行防除園では、フツウカブリダニとケナガカブリダニの2種が確認される（図1）。
- 4．リンゴハダニが多くナミハダニが少ない園地ではフツウカブリダニ（図2）が多く、ナミハダニが目立つ園地ではケナガカブリダニ（図3）が多い傾向がある。
- 5．フツウカブリダニはリンゴハダニと、ケナガカブリダニはナミハダニと同時に発生しており土着天敵としての利用が期待される。

[普及対象範囲]

県南部のリンゴ産地

[普及・参考上の留意事項]

- 1．ダニ類の発生状況によってはカブリダニの優占種が異なる場合がある。
- 2．ハダニの寄生密度が高くなる前に、カブリダニ類の定着を高める技術確立が今後の検討課題である。

[具体的なデータ等]

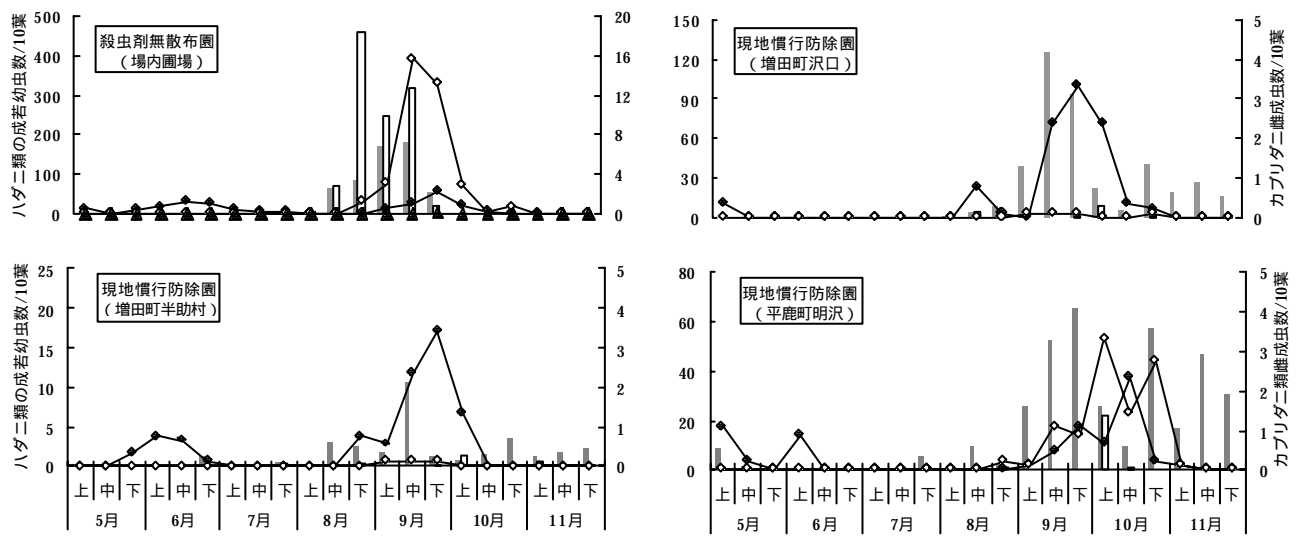


図1 各リンゴ園におけるハダニ類とカブリダニ類の発生状況

リンゴハダニ ナミハダニ
 ツツアカブリダニ ケナガブリダニ ニセラゴブリダニ



図2 リンゴハダニを捕食するツツアカブリダニ



図3 ナミハダニを捕食するケナガブリダニ

[発表文献など]

北日本病害虫研究会報 第55号 (投稿中)